

事後内部評価シート

調査研究課題名	環境負荷の少ない都市・国土構造に関する研究 (大都市圏(東京)モデル)
担当者	山口総括主任研究官、野澤主任研究官、青木研究官
当初目標と目標達成度	定量的な分析を可能とするモデルを構築し、首都圏を対象とした交通体系及び都市構造に関する施策が、中長期的に同地域からのCO ₂ 排出量に及ぼす影響を評価し、当初の目標を達成することができた。研究会での指摘等を踏まえ、更にモデルを改善、充実していく予定。
調査研究内容の妥当性	交通体系等に係る各種施策がCO ₂ 排出量に与える影響について、従来の多くのシミュレーションが交通体系に係る施策を交通市場のみにおいて、評価しているのに対し、本研究では、現実には、大規模な交通体系の変革は居住地や商業地の選択に大きな影響を及ぼしていることに着目し、これらの関連を織りこんだ交通・土地利用モデルを用いてCO ₂ 排出量の変化を分析した。
調査研究の仕組みの妥当性	交通・土地利用モデルの研究に取り組んでいる研究機関に外部委託するとともに、交通や民生部門を専門とする学識経験者からなる研究会を設置し、効率的かつ的確な調査研究を進めた。
成果と活用(予定)	環境負荷を少なくする各種施策効果を定量的に明らかにし、さらにその社会経済的影響も分析することにより、国土交通省としての実施する施策の検討に資する。
その他	土木計画学研究発表会(2002年春大会)第15回鉄道総研講演会(2002年11月)にて発表。 成果報告書として作成し、関係者に配布。 PRI Review 第4号(2002年春季)に掲載し、関係者に配布。